

琉球

第二十二卷

W
3

1. The Loochoo Islands
by Charles S. Leavenworth, M.A. Shanghai 1905
2. Account of a Voyage of discovery
to the west coast of Corea & the Loochoo Islands
by Captain Basil Hall London 1818.
3. Narrative of the Expedition of an American Squadron
to the China Sea & Japan
under Commodore M.C. Perry, United States Navy.
Washington. 1856.

琉球(那覇)

平均温度 二二、
 絶対最高気温 三五、
 湿度 八一、
 最大風速 四七—七五、

沖繩群
 面積不詳 或ハ百三十六方里
 人口約六十萬
 密スルニ中東地ノ約二倍

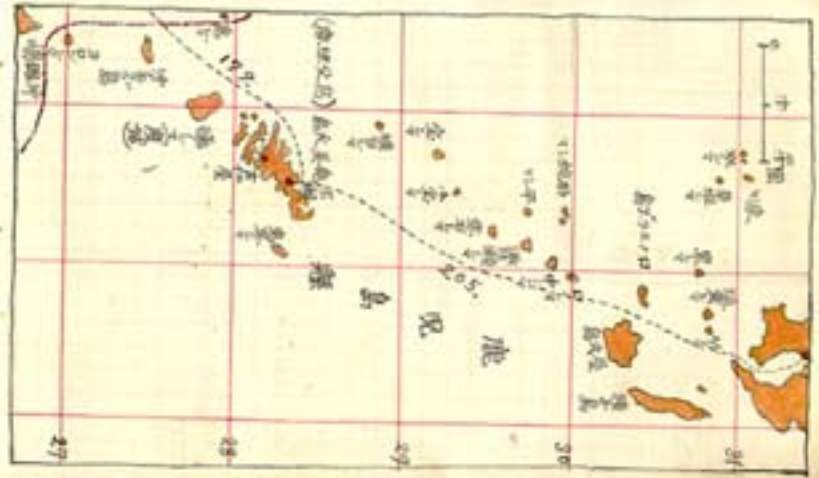
悪疫、テングー熱、スペイン流、
 総患者約四萬、
 死者四十二名

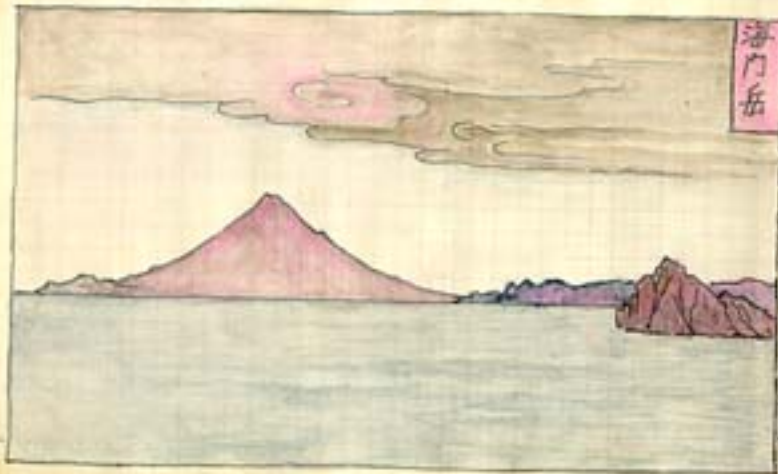
颶風、八月九日ヨリ十六日迄八日、
 累計百四十九吋多、
 最大風速二十八メートル
 雨量一坪十石

櫻島



大和正長島北月七九日





海門岳

大正十三年七月二十九日



大島

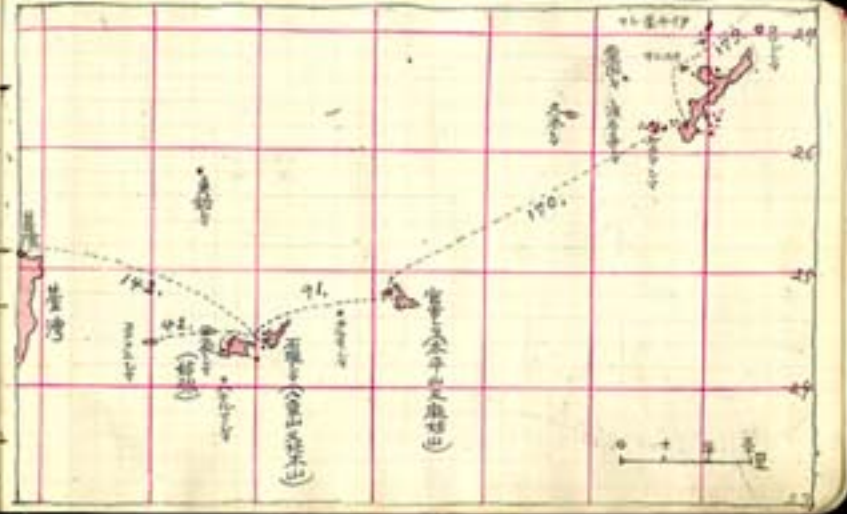


アイヌ種ノ痕跡ヲ示スモノ

土人の女子



大正十三年七月三十日



大島沖の彩雲



大正十三年七月三十日

大正十三年七月三十日



墓
尚巴志王陵(首墓)

石敢當



石敢當

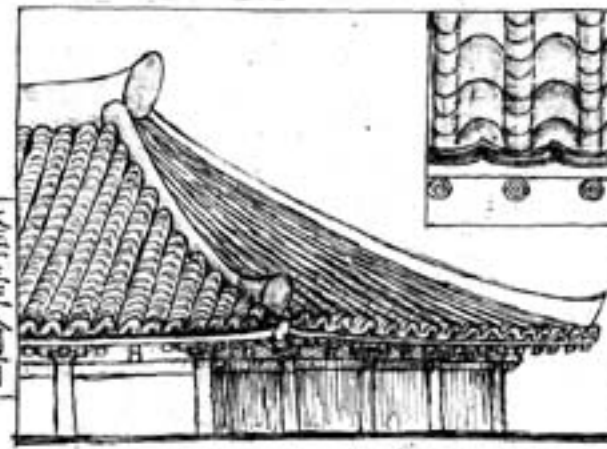


石塀

大正十三年七月三十日



琉球宮子
 下ニ白キサルマタラ宮子ト上ニ色黒布ノ衣ヲ着ル
 帯ヲ用キテ、左社右社ハ任意ニテ衣ノ節ヲ
 サルマタラノ様ナリ
 風呂ニ入ル時ハ腰ニ布ヲ纏ヒ赤襟ヲ着ル
 但し田舎ニテハ女子ノサルマタラ用キサルモノアリ
 コノ時ハ細帯ヲシテ又ハワケ紐トテ飾ヲ結ブ

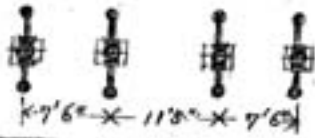
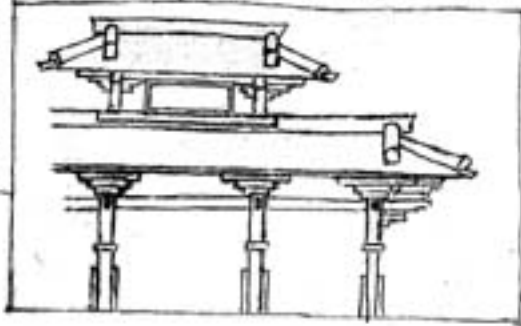


琉球土人の屋根

軒ニ激ナル風アリテ
 大屋根トシテ著シ
 大棟交リ著シ

大正三年八月一日

嘉靖年宮尚清王建立

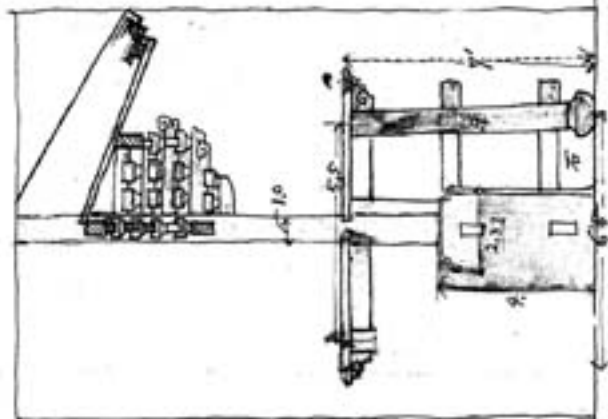
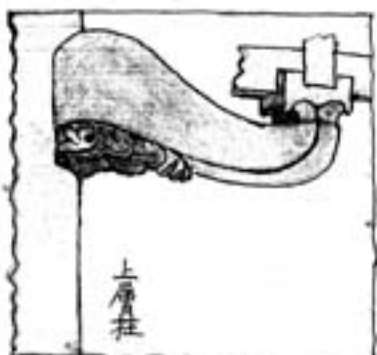
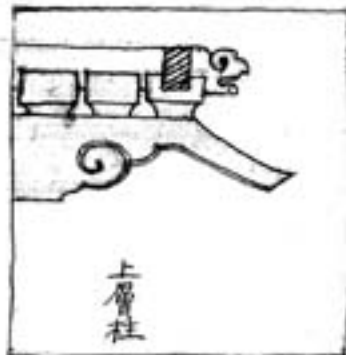


4'7"6" x 11'3" x 7'6"

三間神樓

○守孔門

八月一日首里宮城



△
石高松
井原
長門
備前
備中

○
武蔵野
天孫氏ノ娘ヲ祀ルトス



開得大君神威ノ
球陽ニ曰ク

殿内有一百
其文百由也
正徳中宣徳
年丁未八月
望安園山樹
本記石碑
夏非堂聖
所必之
正徳中宣徳
行拜礼

門楣の陶製装の補綴子

首里の王がさきまかゆいがかあし南唐
御代にたて申候

正徳十四年己卯十月二十九日

とありしと云ふ今覆むるあり

所蔵ハ自然物葉片ノ装綴

貞享五十四三年の條

創造圖比武蔵野石門(球陽)

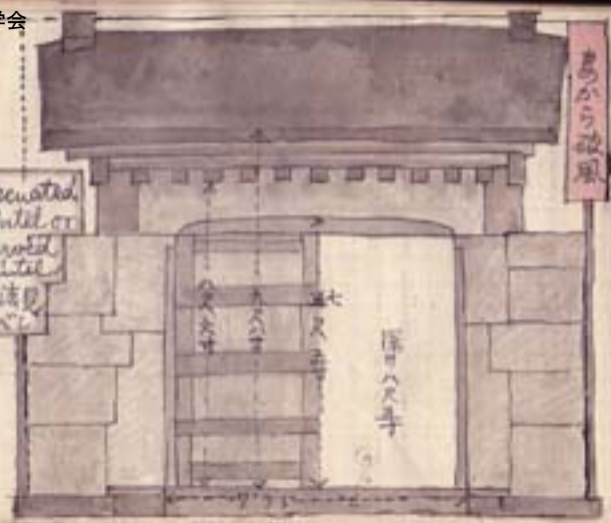
高棟

中央
大佛六出宝珠

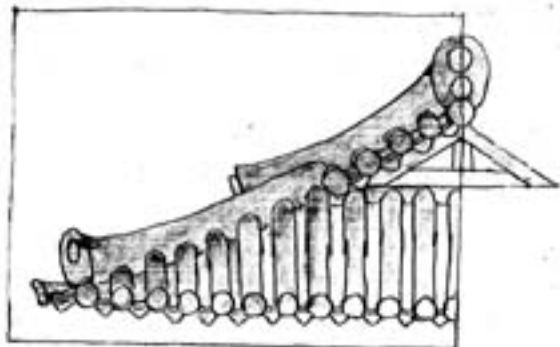
宣福二年(志永二十四年 368)



Arcuated
Lintel or
Carved
Lintel
用法見
巻1



高から破風



敵舎内
 鳥ノ手法多ク断如シ

2/

皇紀 2137
 高奥王時代

拱上二間 二面入母屋檼
 第百十二尺方檼也十八尺也
 門前石砌一野アリ奇古觀ルベシ

Dach = カナ
 Kintel = カナ

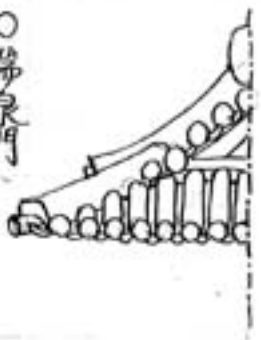


敵舎門

深サ九尺六寸
 深サ十四尺六寸
 高十三尺寸

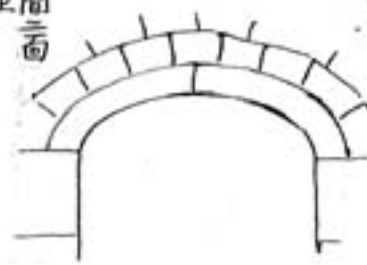
平十丈六寸五分

○瑞泉門
 拱ノレ壁土直々ニ木楣ヲ架ス
 橋三〇二面入母屋前者ノ如シ
 廣九尺五寸 深十四尺二寸
 高十二尺二寸(但石ノミ)

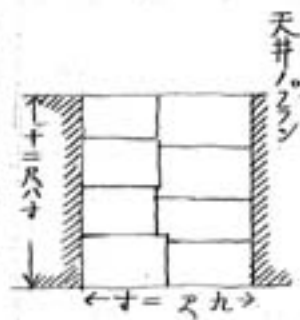


屋根ノ手法前者ノ全シ
 最モ之例屋ナシトス

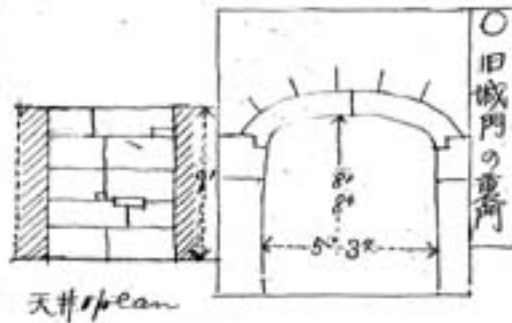
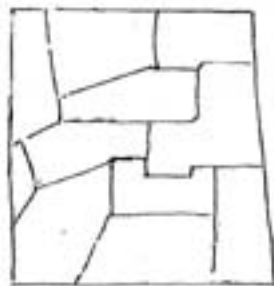
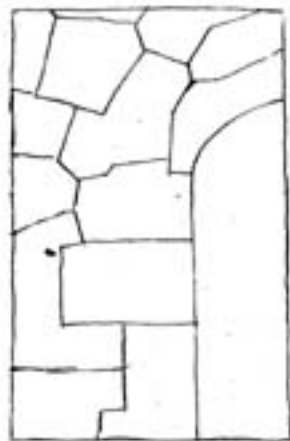
梅間三面
 入母屋



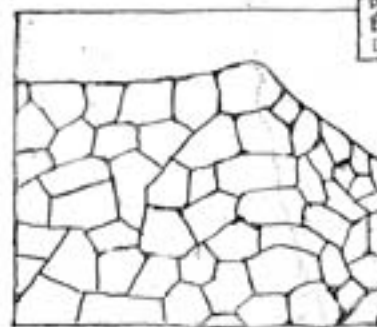
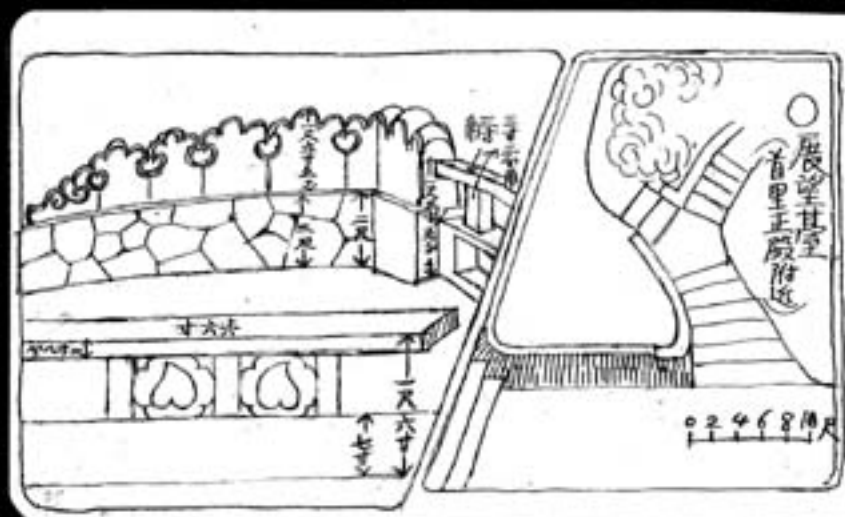
○久慶門
 廣九尺二寸 高十二尺



天井ノラシ



○漏刻門
拱ノ形式前者向レ
2899 漏刻を置く
廣一丈一尺五寸八分 深十五尺六寸



○旧王城正門？
 廣六尺六寸 高九尺三寸 厚一丈一尺
 大命堂等と同手法 但ふ若コリ
 ナ、精巧ナリ。

○琉球藝術に現はれる美曲線
 総て城壁ノ角ハ圓ノ如クナリ 曲線ニ安シ
 セル狀面白シ

○旧王城正門？

廣六尺六寸 高九尺三寸 厚一丈一尺
大命堂等と同手法 但ふ若コリ
ナ、精巧ナリ。

○琉球藝術に現はれる美曲線

総て城壁ノ角ハ圓ノ如クナリ 曲線ニ安シ
セル狀面白シ

○正殿
モンダスエ
百浦添御本殿
俗名、オモンダシ

Momurasue
mondasue
mondasi

○正殿の右

常中殿(コガ子オドン)

桁行十一間 九十五尺七寸

五十六尺六寸

百五十坪、四七

深さ七間

突出(突出)

九坪、〇一

向拜(七尺五寸)

六坪、五

上層 桁行

合計

百六十五坪、八三

前面石壇石階、階下は龍柱一對、えま
階上は三對ありし。

壁は石櫛あり、階上見へし

正面廣破風は白木式、あき彫り彫刻、松山

と云ふ

大丸のこころ

鬼板の巨龍

下層ハ二重、ナリ上ノ重ノ正面ニ國王
出御、龍ノ彫刻の間ありあ庭の群臣ヲ
見ル、

窓ハ窓ヲ垂ル、

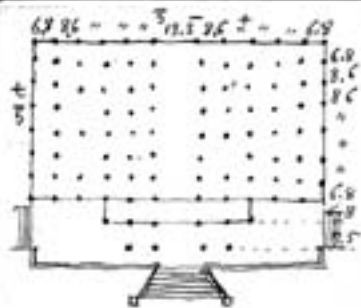
上層向ノ段ニテ、壇上ヨリ九間

創立不詳

寛永六年焼失、

現建築八享保十四年ノ再建ト稱ス

弘化三年八月修築ノマ、今日ニ至ル、



○倉



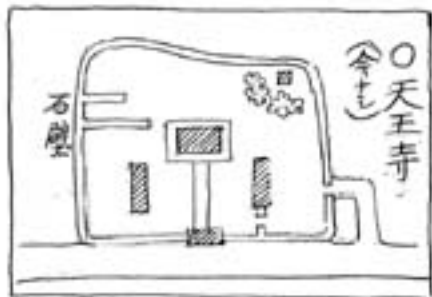
中山傳位録：米原ノ條・圖辭セリ
 藏米原ノ地四五尺或望や草亭、下
 地十六柱、柱間空處、可通人行、上為版閣、
 官倉名皆如此、村人或數家共有一序、藏
 米其中、分日守望、



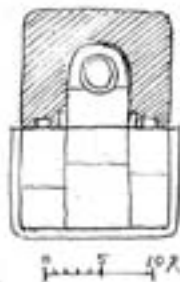
珠陽卷一、孝度王親天文
 ……且歌曰、母之飛衣、在六柱
 倉母之舞衣、在八柱倉、母天
 飛衣先七、坐倉視之果藏于櫃
 中、以掃草藏之、即着飛衣而上天
 球陽 南吳王十年天文傳説
 ……己歌曰、母之飛衣、藏之于圖草之中、
 隱在六柱倉裏、母之舞衣、掛在八柱倉内、
 藏之于粟草之中、……
 勢島、エラフ島ノモノハ屋根勾肥意ナリ

○自然物崇拝

石ヲ以テ築テ壇ヲ造テヤリ、上ニ樹ヲ植テ、
 壇ハ四角ナリ、即チ磐城神籬式ナリ、

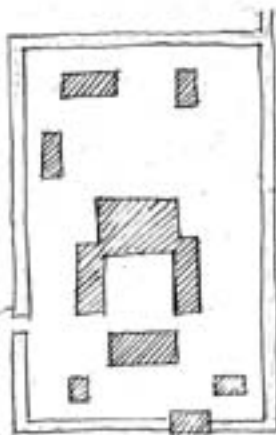


○天王寺
(今七)

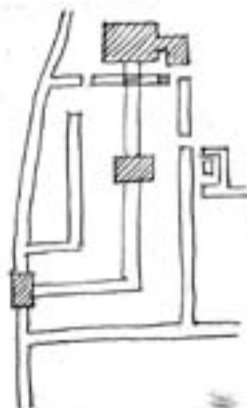


○工業学校の井

尚王父の喪に居る所
父君喪去後百日間マニ居ル



○大美御殿(谷上)



○天界寺(谷上)

八月二日

○波上宮(官幣中小社)

歿後三年ノ朝鮮鐘アリ

○護国寺(真言宗)

○山門(仁王門)
から様

○本堂

乾隆丙子の大福海ノ扁アリ

乾隆十年ノ喚鐘アリ

本尊不動瓊琰作ノ如子瓊琰作

別ノ弥勒菩薩ノ如子観音アリ日秀上人

(加州ノ)漂着ノ如シテ金武ノ観音寺

ヲ建テ次アコノ寺ヲ作り自ラ三尊ヲ

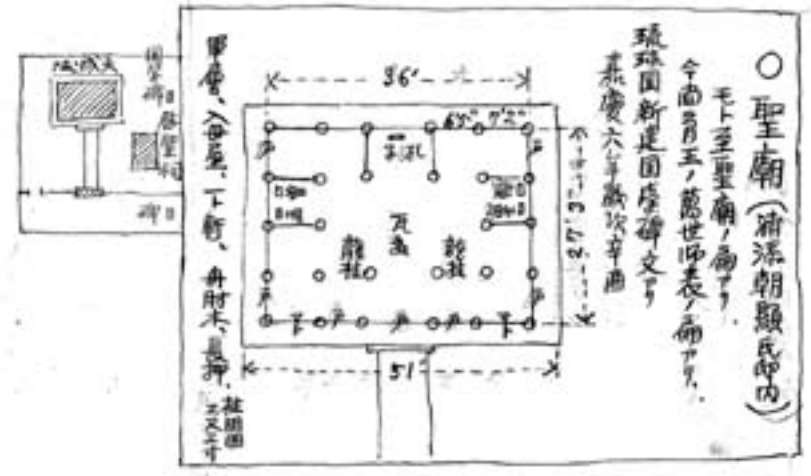
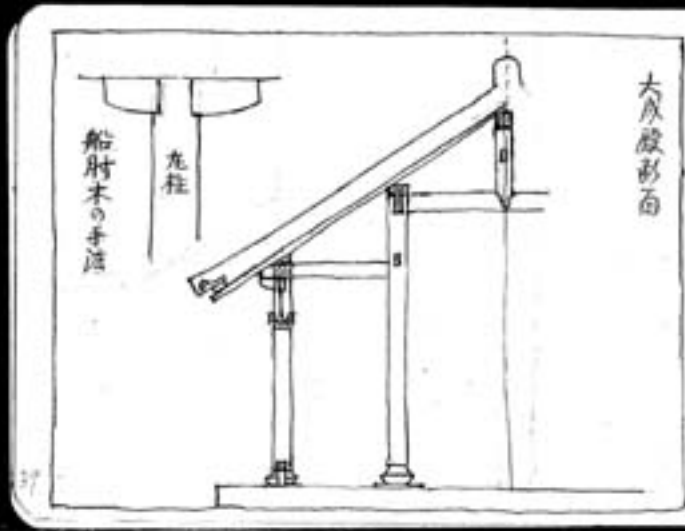
刻ストリ

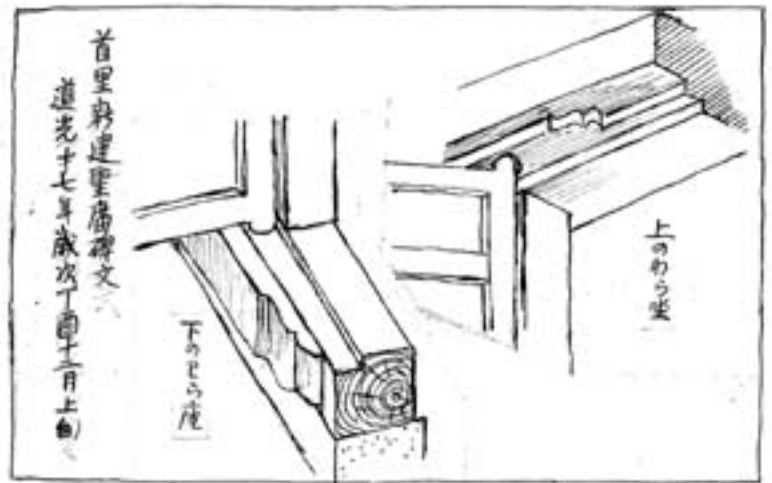
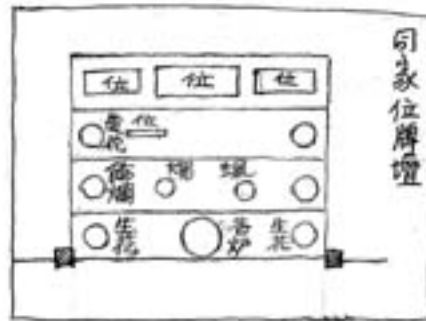
○陽石

波上宮ニアリ高サ二尺許リ



旧波上宮ノ内神体ナリト云フ





● 辨獄(拜所(方丈))



至徳土屋金草子
廣六尺八寸
高七尺四寸
軒下字九尺四寸
埋竹六尺
土階前、休息所也
門内、小細り七寸

尚清王御簾ノ下
屋根棟上屋吻
2187.



珠鳥
尚貞王即位四十五年創造見藏石垣
(即位元年八歲化十五年丁酉)

○東苑

尚王室ノ離宮ニテ所封侯ヲ養育セル所

凡皇弟絶儀茶席的ノ酒

満志小運氣ナルカ今大

荒廢セリ

庭内附林中ニ石新

アリ大サ五尺行リ殿

凡見ルベシ

玄園名板

大条下リ棟ノ階柱
等ノ寛元四角ナリ

ワビイロ

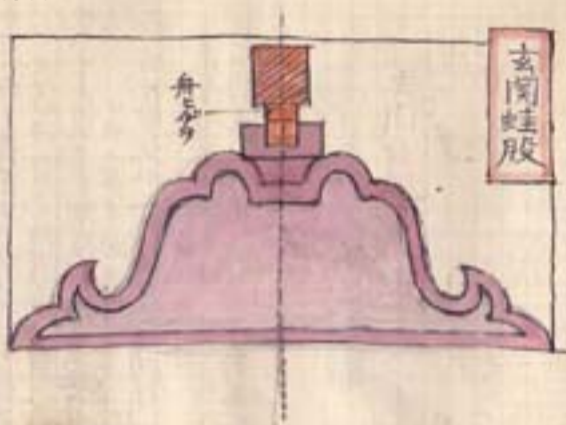


瓦割ノ例



瓦ト葺キトノ比
10 : 5.3

(日本ニテハ風風堂
コトニ近シク分岐成テ
倒ナシ瓦葺キノ例
多クコレニ近シ) 197



首里市天界寺跡前 弘治十四年尚書

● 玉陵 (タマウドクシ) 玉建立

文明八年¹³²²尚内王喪去、摩貝上森ニ葬リしが文龜元年¹⁵⁰¹今他ニ移シ、尔来歴代ノ王コレニ葬ラレ、中央ハ新ク焼セル王ノ屍ヲ葬ル室左右ニ向テ左ヨリ洗骨セル歴代ノ王ノ骨ヲ藏スル室、中々堂々タル規模、左端ノ壁上ニ異形像立リ、中央ト左室ノ間、円壇アリ、上ニ獅立テ、神秘的氣分人々魅ス、在ハ珊瑚片。

● 民家

依此の農家は九尺四方の一室、浴室ニ有テ柱ハ堀立ニテ圓如キ撥



形ヲシ、上部ニ桁ヲ敷セ繩(トコロ)ニテ縛リ、釘ヲ用テス、壁ハ或ハ小石ト泥トニテコニ上ケルアリ、或ハ竹ヲ圓ノ如ク網代ニ編シ、中間ニ茅ヲ入レ、両面ヨリ狄ニテ縛ル



細キ竹五本位ヲ以テ 扉位トス。

屋根ハ昔チ草アリ、スレテ手相エニテ工人ノ手ヲ借ルナシ、床ハ地上ニ尺以内ニテ板ヲ敷キテス、ソノ上ニ異種ノ敷ク、附居ル者ハ竈室ヲ中ニキ土百ナリ、入口ハ引戸ヲ附ス、壁スレキハ仏ノ立派ナコトニテ水ノ粒要ニ似合ハス、壁ニタリ、祖父ノ位牌ヲ高置シ、仏具ヲ備フ

壁ノ三式
1. 泥
2. 竹
3. 木



○アキキ (殿)

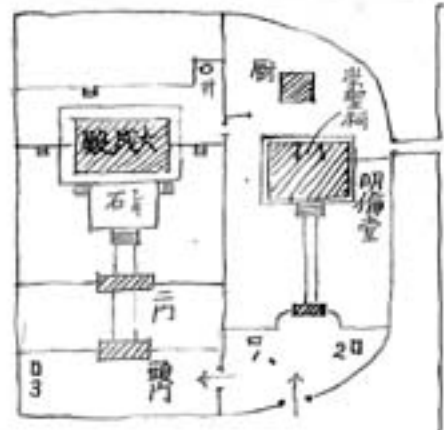
一村ニワノアキキアリ、コレハ地固有ノ
 宗跡ニシテ、神ノ似、儒、道等ト關係ナシ。
 自然物岩岸、傍習ヨリ出タルモノニアハシ。
 森等、對象物トシ、ワノ前ニ亭子ノ如キ
 建第ヲ作ル。一村ノ祭可又ハ重要ナル事トシテ、
 行事ヲナス。鳴竹ナリ、母屋ノ右ニアル建第
 安南ノ廟ニシテ、トシタル点アリ。
 神事ハ、ハロ(至区)コトヲ司ル、ハロハ地方ニ
 於ケル勢力ナリ、ソノ數ハ

- 四十四 回踏
- 六十四 中頭
- 百〇四 島尻

ヲ他ヲ合セテ三百余アリ
 神器トシテ、マカエト加波羅ヲ有スル必要
 トス。三階級アリ
 南傳大臣神夜(ナカオホヤキキトシ)
 三殿内(ミドシチ)
 祝殿内(ノロトシ)
 新市ノノロヲ大阿母ト云フ、何ヨリ上席
 伊平座ノ、何ヲ阿母加部志ト云フ、特別ナリ
 何ナリハ、傳説ナリ、内王ノ神、最初ナリ

○那霸聖廟

- 1 琉球新集傳記
 康熙三十八年歲次己未冬十月
- 2 大清琉球國夫子廟碑
 乾隆三十五年歲次丙子春秋既望
- 3 琉球國新集至聖廟碑記
 大清康熙五十五年歲次丙申十二月

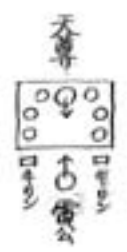


△頭門
 三間(八脚)入母屋造、へがき杵拱す
 △二門
 三間牌楼型、五聖廟と扁す、へがき杵拱す
 △大成殿
 五間四面、入母屋、船肘木、へがき杵、大分構造、様式一々首里ノモト同シ
 △明倫堂
 後部中央ヲ坐聖祠トス
 △門
 扁ヲ佛學トス

○天尊廟

碑不明
 全一乾隆四十三年
 鐘一口景泰七年(九月廿三日)
 住持權律師銀證之
 大工園吉 奉行智賢
 三間三面前一戸向拜(每屋)杵拱す

天妃廟ヲ敬崇ス天妃ヲコトヒ合祀
 スト云フ、或ハ閩帝滿ガ仍スル
 シテ撤廢シ閩帝ヲコトヒ合祀セシ
 ニアサカ



天尊廟



鐘一口

モト天妃宮ニアリシ

景泰五年朔旦施

奉行

与那福

中西

大工町門前及原国光

鐘一口

景泰八年正月初一日誌

奉行

与那福
中西

大工町門前及原国光

○ 臨海寺 (奥平)

梵鐘 天順三年三月十五日

臨海橋碑 康熙五十年癸巳五月吉日

本尊樂師三尊

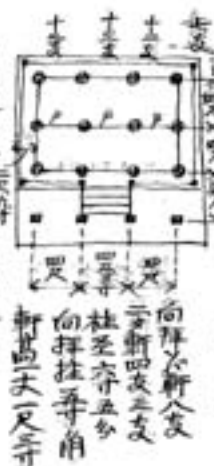
至正壬午四月十九日云々

○ 砲臺、三重城とせら座

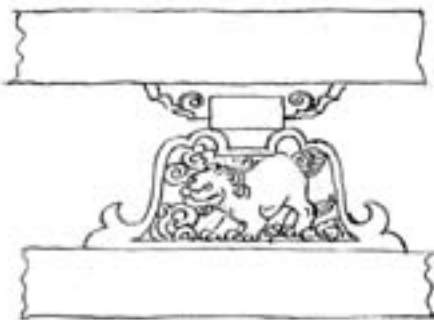
倭寇に備へたると稱す

○ 水産学校

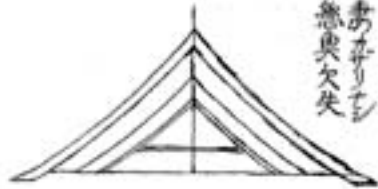
○ 天久宮 (無格社) 鳥居群



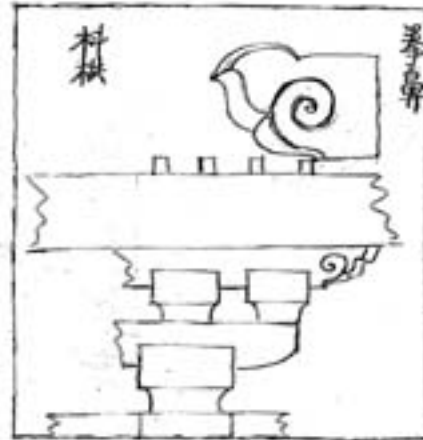
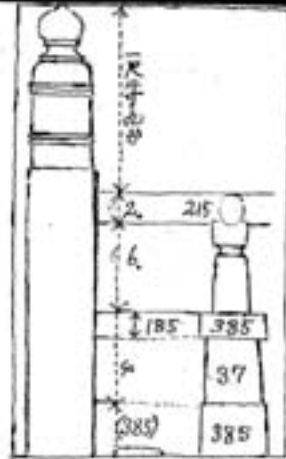
三間流と道入母屋、向拝、瓦葺



左 虎
右 獅子
中央 大木
左 大木
右 大木



垂
木
ノ
上
ニ
懸
架
ス
ル
大
梁

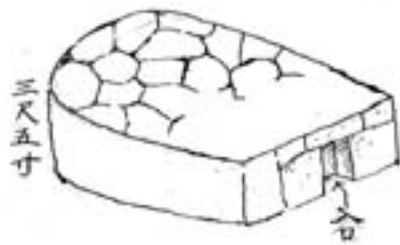


柱
根

内
部
色
彩
残
ル



正
面
柱
ノ
上
部
ニ
對
シ
テ
面
アリ



○支那人の墓
 十尺に六尺
 高サ前二尺
 後三尺五寸



Tablet for
 Inscription

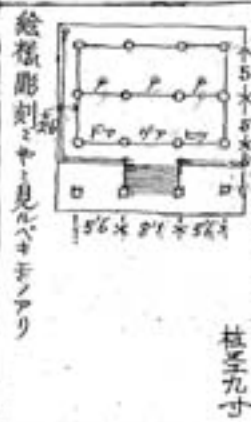


○外人の墓
 長十三尺
 中七尺

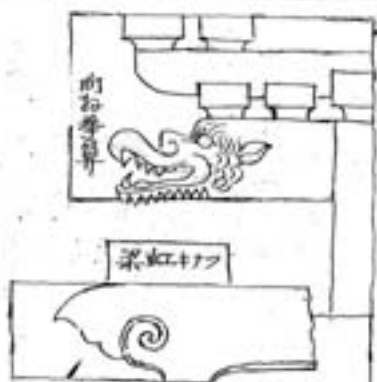
三尺五寸

八幡宮

島尾郡 眞和志村 宇安里
 三間入母屋向拜殿 軒高十三尺八寸
 前者ト全ク同型ナルモ前者ヨリモ五分
 柱三九寸



絵様彫刻ニヤト見ルハキチナアリ



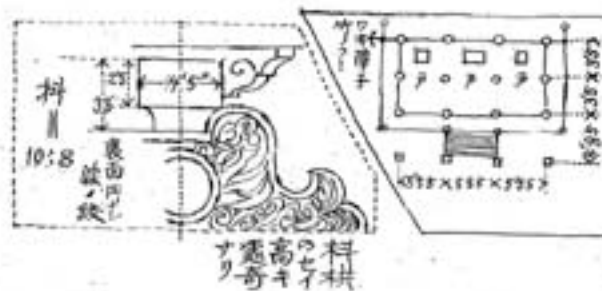
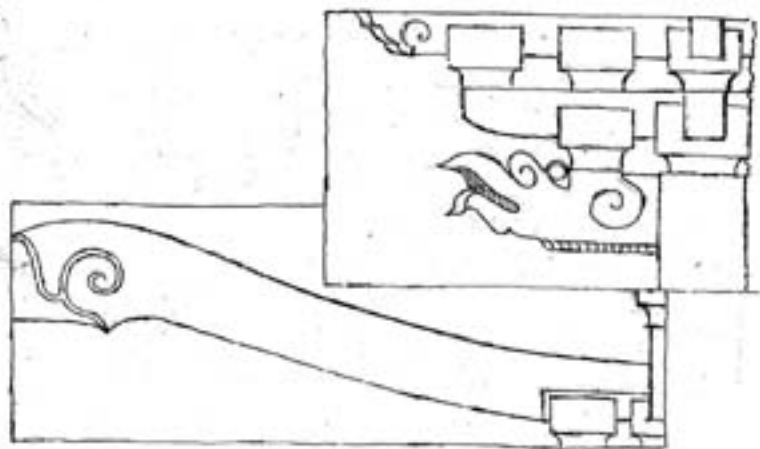
カヘルマダ三ヶ所共から草



安里八幡ノ御

神休ハ為朝ノ雨ホリ
 始メ舞天火ヲ思フテ
 泣ク即チ面を作テ之
 フ感モ後之ヲ聞比屋
 武甕御ニ置ス舞天ノ子
 之ヲ見ルニ願ル恐ロト由テ安里ニ移ス
 後薩テノ僧來テ之ヲ持テ去レト云フ





枓 10:8
裏面用

○沖宮
モト臨海寺にあり今の物？ノ
隣ラニ移轉セリ。
三門社流氷道ノ瓦葺



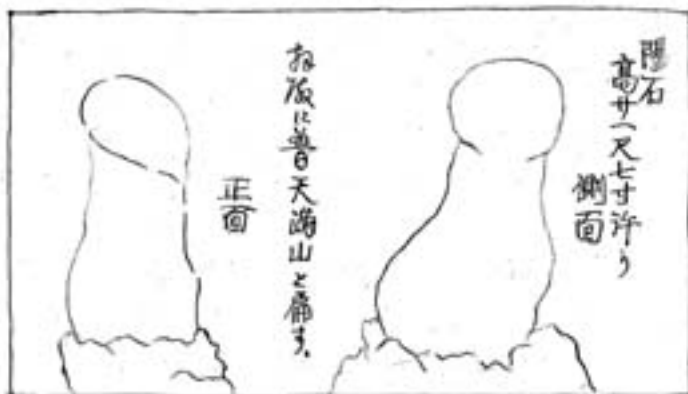


高二尺

Ukufan

食籠、仙翁と供へモノヲ入ル
或ハ正月ノ木ヲ盛リ中ニ燈ヲイセテ
床ノ内ニ置テ等々ノ用フ

○神宮寺(見せ)
四百五十年前の建物と云ふ柱の面、舟
肘木の工合大に見ルベシ。



正面

お版に善天満山と彫る

隱石
高サ一尺七寸許り
側面

○沖繩固有ノ神祠

最高ノ神女ヲ聞得大君トスニ國家安全

五款ニ定テ新ニ神件ニアリ

一、衝スゲノ物前 二、國土ノ神

二、衝スゲノ物前 三、火ノ神

三、衝スゲノ物前 四、金ノ神

聞得大君沖波ハ同町ノ神祠ヲ以上三神ヲ奉ル

ヲ下ニ奉ルニ、奥座敷内ニ首里殿内ノニテ

コレヲニ殿内トスニ之ヲ引ル神女ハ

大河母志長礼ナリ

聞得大君居生メ大河母志長礼ハ家根ヲメ置カ

三殿内ニ首里ヲ世勢上ニツク今々各部

殿ヲ作リタルガ、其深クハ男根ヲ家ルセ

ナリ、今合ヒテ首里城ノ下ナリ。

自然物崇拜

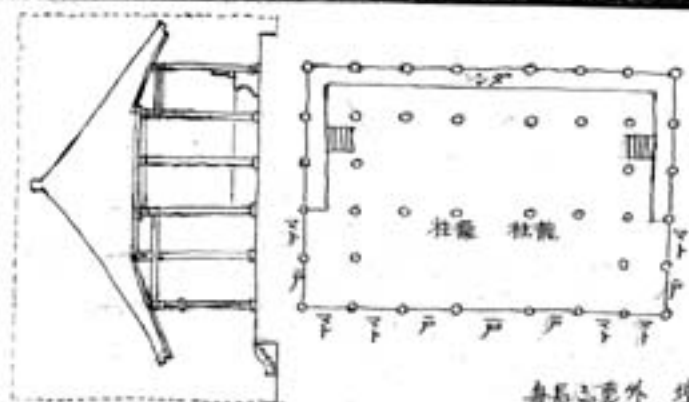
火、水、風、土、スヘテ崇拜ス、井戸ノ昔

又ハ男根トシテ置ク所アリ

今歸仁ノ遷拜所ニ居ルハ特別ニテ

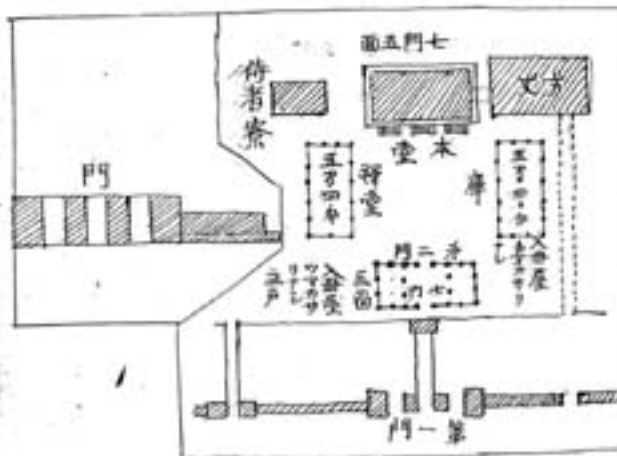
阿倍理尊(俗ニオレト云フ)

伊平屋ニ對スル遷拜所ナリ。

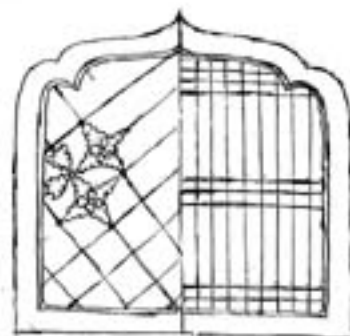
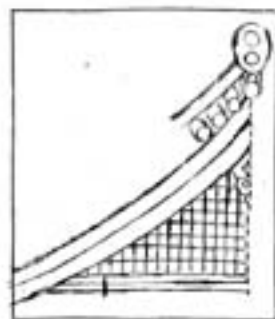


本堂内部彩色及天井構造
 續北觀堂
 續瓦敷

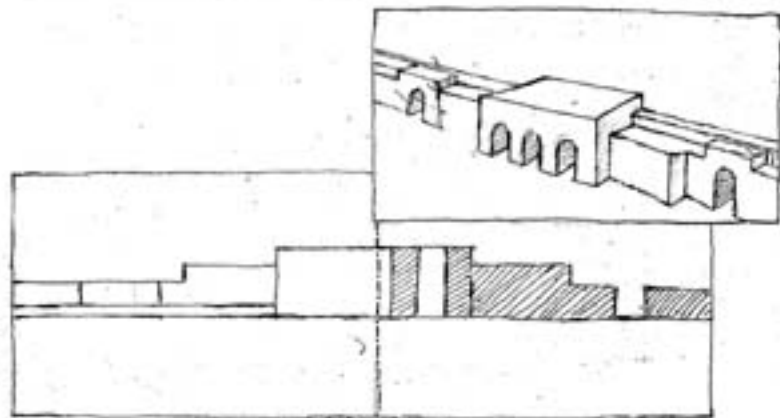
外二軒
 表甲小宇
 長押坊
 舟時木



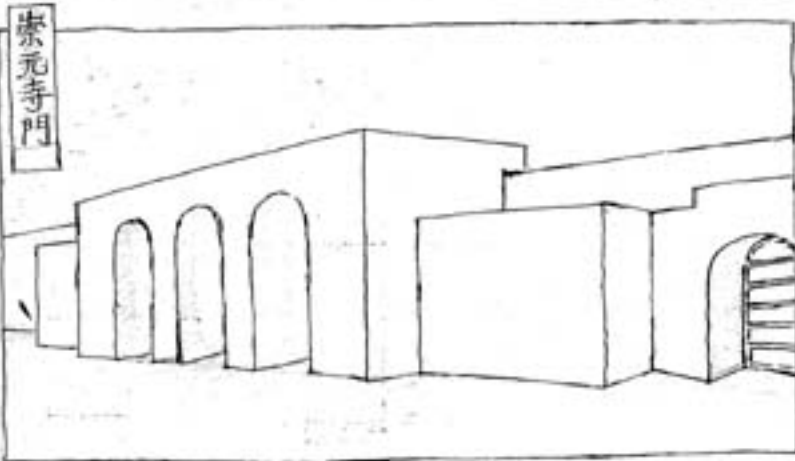
○崇元寺(堀濟)
 創立尚内王保成化
 二没尚巴系王宣德
 現建築保順治十六年
 唐四三十一年重修瓦葺耳トス
 重修



窓の内 窓ノ外

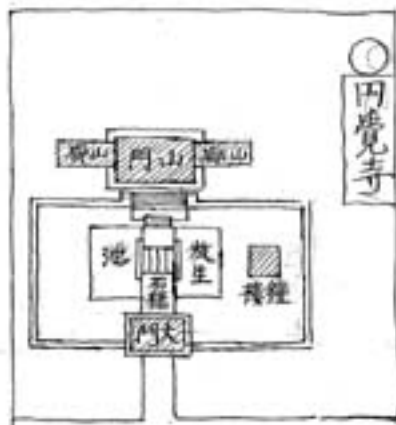


崇元寺の門



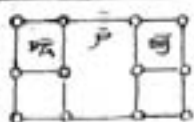
崇元寺門

○内覺見寺



△大門(総門)

八脚一間仁王ヲ安置スニト軒入母屋、
アラン異例ナリ。



全部から料枘ニ手先中、
間三具ぬきの間二具、ツの組、
漆木創出載、ひナラズ
中の間十四丈、わき九丈、十
わマア、その先三丈

金剛栴、上の門ヲ貫通ス、上ノ門、
圓ノ如ク彫刻アリ



△放生池石橋欄ノ銘

大明弘治六年歲春石月普建主

長史探庵 睿造

下アチニアラス 橋ナリ

△山門(築造)

康保六年外塔

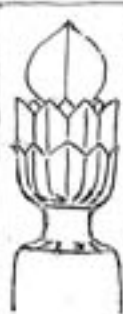
三間二戸樓門、下、飾アリ

下軒ニ手先、ニタ軒ツツ組

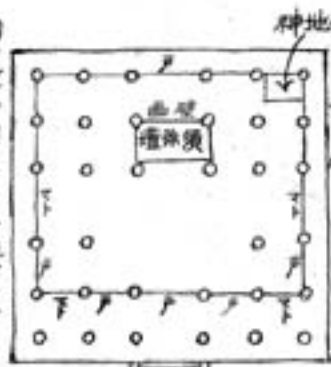
上層ニ手先、ニ重尾懸木、ニタ軒、裏甲深

觀音及十六羅漢、ヲ安置ス、

上層扇タルキツ元組



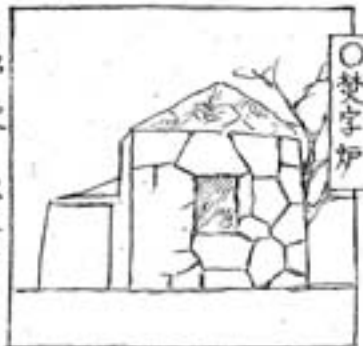
田舎寺舎利
柱上全型様式
上層扇形



神地土

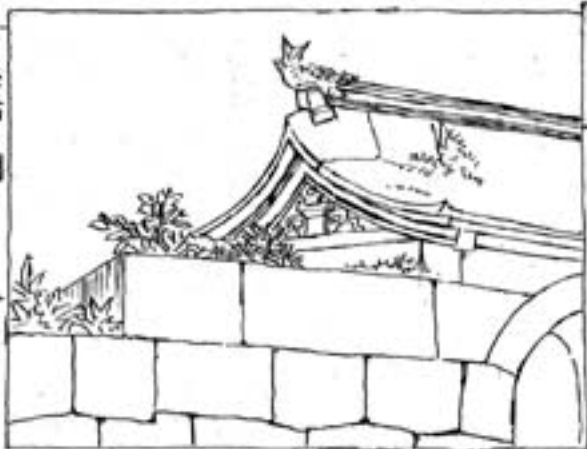
○辨殿 弘治五年

前面二列
檼柱ヲ
割り水
十之六程
下



○焚字炉

直主橋コノ門ノ
築造法ヲ
手本ニシテ造ると云ふ



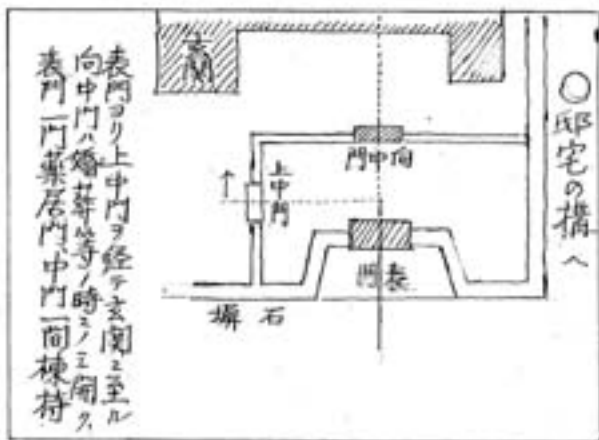
南脇門



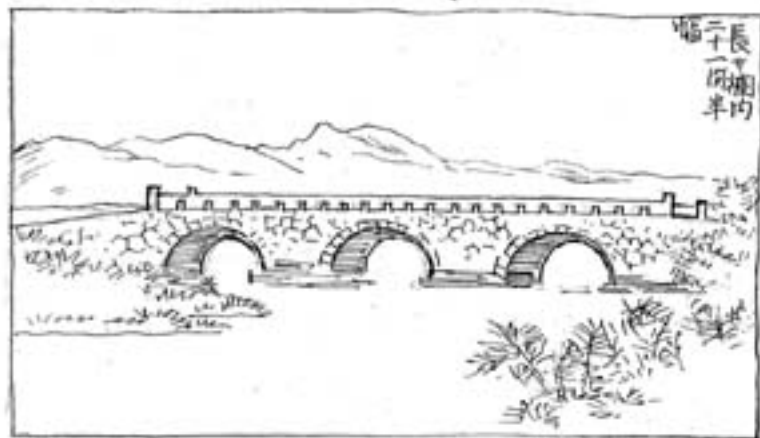
○円鑑池
 弁財天宮(平十弘治十五年冬見是兒之文)
 △崩連橋
 △天女堂、橋

○真王橋 ニハニヤ
 大永二年 尚眞王ノ時創建 如美奥
 珠橋ト云ク 首里城ト世見城トノ意也
 今尚眞王ノ御宇ニ於テ五橋アリ
 中央ノ眞王橋 トニ南ノ世持橋 北ノ世持橋
 西ニ橋ハ冬無シ
 享保五年 一ニシテ 尚眞王ノとき衣橋に
 改作 健全ノ構築力ノ精力 世界の
 ノ名橋ナリ
 長サト幅ト高ノ比異ナリ
 アーチハ殆ント円拱ナリ
 三拱ノ配置美ナリ
 平面的ニテハ三裝飾ナキ妙美ナリ
 要ハマツス力カ美ナリ

○美築橋 ニハニヤ
 享徳元年 尚全福王ノ時建立



表門ヨリ上中門ヲ経テ玄關ニ至ル
 向中門ハ簾ヲ葺キ時ニ玉欄ナ
 表門一門葉居内中門一箇棟持



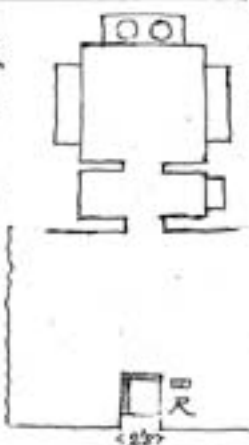
○識名宮(生種器)
康應年間創立

○末吉宮(熊野權現)
天順年間創立
喪半踏お敷 自然ノ岩カ股移ラズ
祈下。櫻根ヲ置メ女入窓カ、窓ノ叶ヲ擲メ
○金武(熊野權現)
嘉靖年間建立

○墳墓
最古式ノモノ名護、邊天地方ニアリ
円丘ナリト云フ

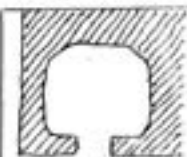
○墳墓 (杜原)

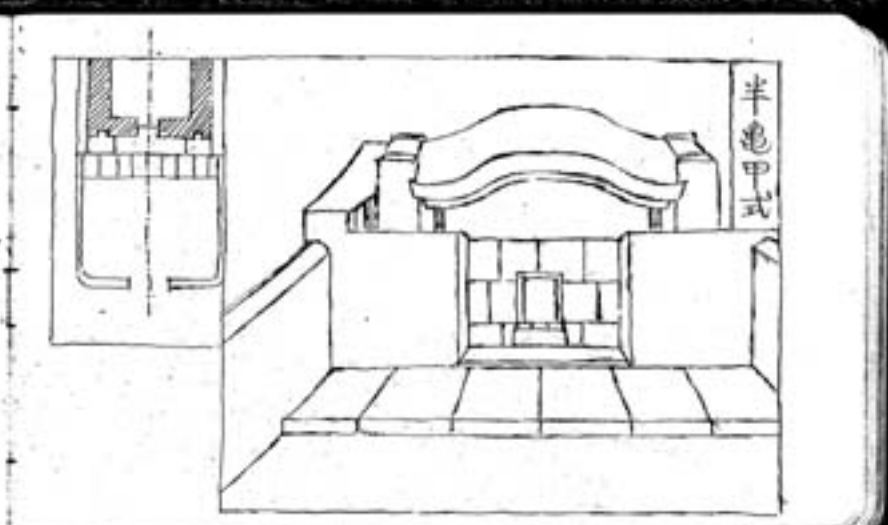
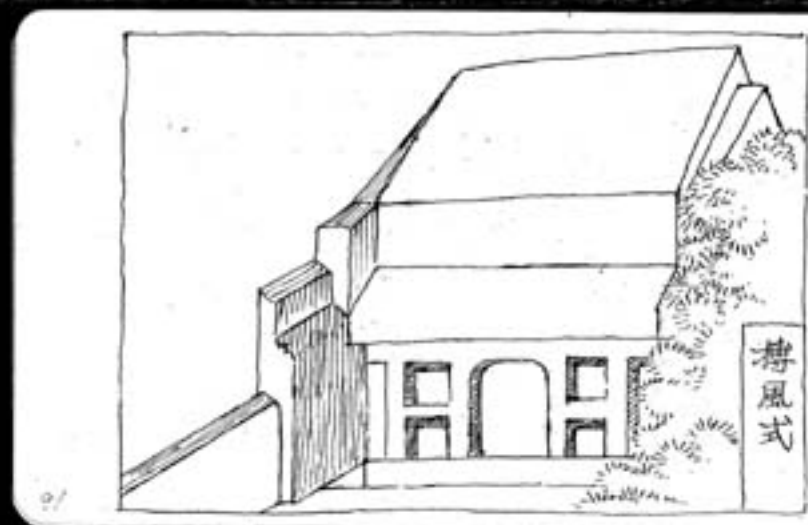
才一種掘又キ 天井ノアチニ又オカト
賭掩屋



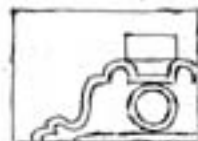
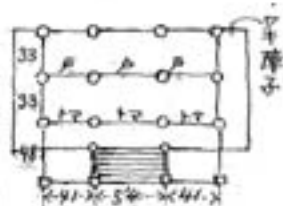
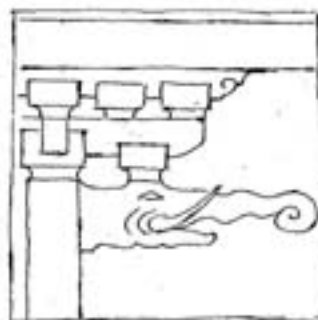
自然ノ岩石ノ面ニ掘リ込キ、
一室又は二室、室ノ内ニ棺ヲ置キ
棺ノ外ニ瓦全ク腐リ後骨ヲ洗ヒ土
に入れて棚ニ安置ス。

原始的の墓

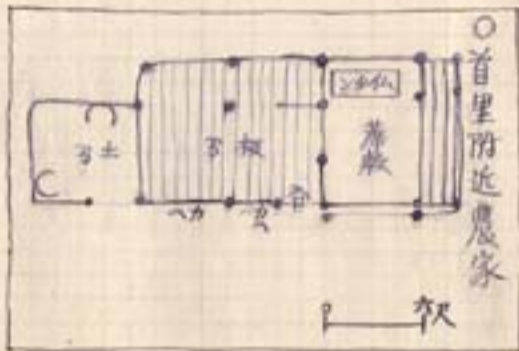




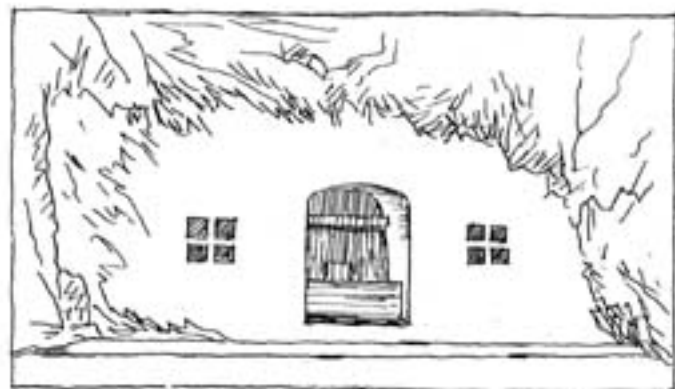
○夜半詣(宮ノ下ニアリ)
 岩石ノ下ニ女根と男根を交ふる
 女子が夜半ニ詣ツル處あり



○末吉宮(通照寺真吉)
 (社壇ト和ス)
 内陣に美しキ古代獅子アリ
 流水苑ニテ棟ニツ斗

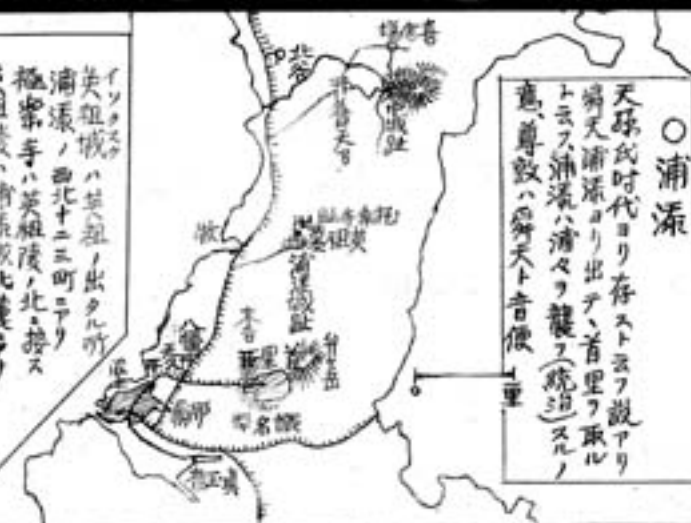






英祖陵

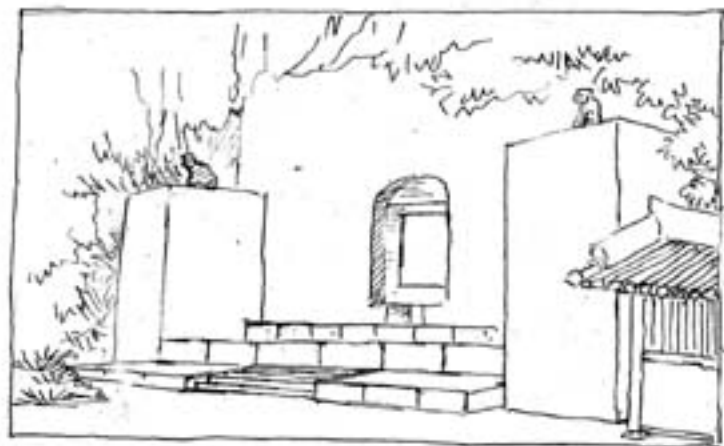
イソツカス
英祖城ハ英祖ノ出タル所
浦添ノ西北十二三町ニアリ
極密寺ハ英祖陵ノ北ニ據ス
英祖陵ハ浦添城北麓ニアリ
○琉球ノ城ハスツラノ：スタト因傷アリ
シキ(城)スツラト別添アルベシ。



○浦添

天孫時代ヨリ存スト云フ説アリ
尚天浦添ヨリ出テ、首里ヲ取ル
ト云フ浦添ハ清タリ龍ヲ(統治)スルノ
意、尊敵ハ(舜)天ト音便ト云フ

尚寧王陵 (墓ニトシ)



○中城 ナカシロ

尚泰久王ノ時校司藤佐九ノ茶茶ノ
当时勝連半島ニ據リタル阿麻知利
ニ備フルカント云フ、要害堅固ヲ以テ
稱セラル。

○鳥居

Stair = Stair

中山門、守礼門等ヲ云フ
鳥居ト關係アリ

○

美イコトヲおもろミテクシ又アヤト云ラ
クニハ妙アリ、アヤハ綾カ
高千穂ノクニナル峯ニ
クニワラ即ち美シキ都ヲ云フ

農婦



中山傳信錄卷六

屋舍

作屋皆不甚高。以避海風。去地僅三四尺許。以避地濕。民間作屋。每間瓦脊四出。如亭子樣。瓦如中國甌瓦。極堅厚。非此不能禦風。故也。無磚牆。每屋四旁。皆夾設板屋壁。庭院中間牆。及外圍牆。則用物石屋壁。首里大外圍牆。磨削一面如切成。極整整。無磚地。多用松葉。高三四尺許。門簾皆無。戶繩上下限皆刻鑿溝連。故門扇其中。左右推轉。以為啓閉。室中以草席蓋。其厚寸許。緣以青布。布滿室中。入室必脫三板。故名脚踏板。自王宮以至民間皆然。屋宇在椰樹野見者。皆村中民居。首里所見官廨。大家舖。皆極華整。然亦一行板。分內外。無層樓。惟官署始建。允作大屋。每屋一間柱礎。至二十餘行。屋用極木作梁柱。堅潤細理。千年不腐。名羅漢杉。大島奇界所出。尤良。僧亦甚貴。作屋一間。費至五百金。故久未大大家。從官有年。尚多結茅者。首里大處皆以此造屋。鋪地。久之光潤可鑑。屋既用板。無地地。多用研花重紗。或白色。或白地。綴花者。稱之。

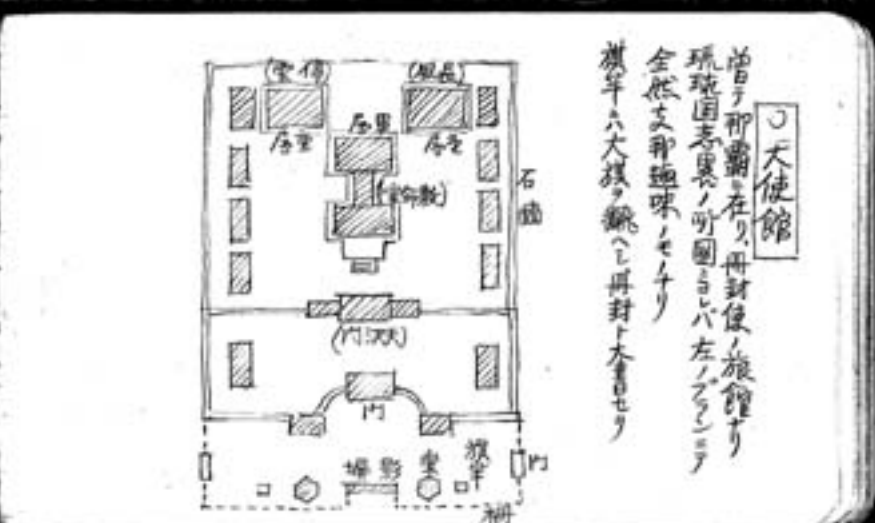
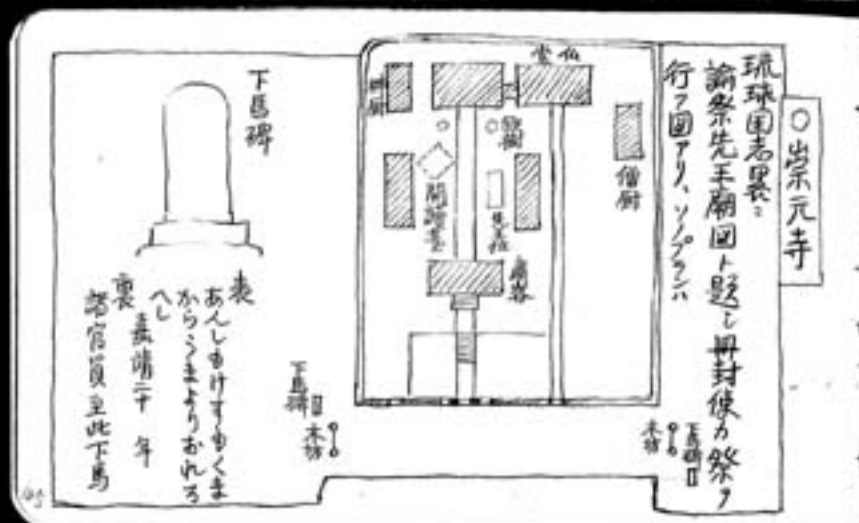
竹簾極優。以細竹全幹編之。挂屋簷間。屋中畫軸皆短小。不過四五尺。屋小故也。若畫貴家長卷。中國畫軸無異。屏幅在堂用四角。例先書一大字。作首。如春夏秋冬仁義禮智之類。下綴詩語三四行。亦不必與大字相應。

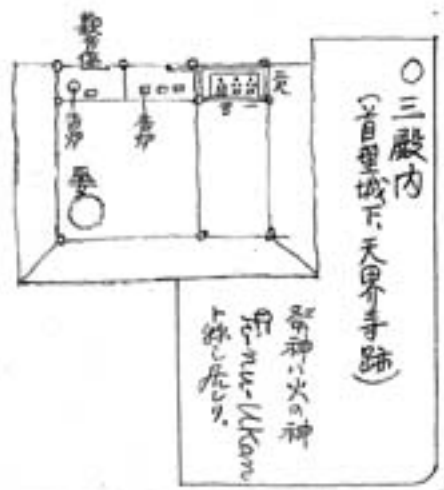
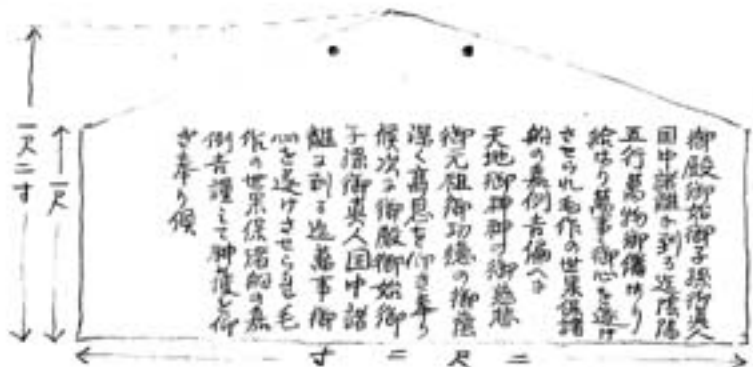
屋中開軒多南向。或東或西。庭院中設小山石樹。黃楊烏桕檜松之類。必前勿末。整齊或方或圓。層々有致。茸草如茵。極細軟柔。結寸許連土不散。布滿山上。下或置小石池。畜魚其中。中立小石。石上植欒蕉等小木為玩。

村垣皆極寬潔。多編細葉小竹作屏籬。剪葉令齊。方整頗密。村落皆是。寺院前或列植黃楊。剪末就方。葉密如牆。數十步許。又有樹葉如冬青。六七月生小白花。香如梔子。極芬烈。土名十里香。亦截作籬屏。將至王宮。夾道教里。



馬飾





○土地固有の思想

一、自然物崇拜
ヒメミコトノミヤ 天孫御降臨の神話
一、海洋と作物
ヒメミコトノミヤ 天孫御降臨の神話

一、間得大君以下の信仰

一、御嶽

一、三殿内

一、ノロ殿内

一、生殖器崇拜

一、男根と女根

一、二天孫御降臨の神話

一、偶像の造形

○内地感化主義、建禮親王の神代卷、

一、言語(古語)の残存

一、文字と文法

一、音楽、舞踊

一、神道、神社
土着固有の神祕的化せり
熊野權現の勸請せり。

△ニケラの若草リト古く祖先の墓を尊と号す
之を墓科云ん凡目なり。

○道教思想

一、石敢當

一、護符

一、三殿内の札

一、天尊

一、天妃

一、閻帝

一、風水

○佛教思想

一、厚葬 | 働哭の礼 | 儒葬(僧止令)

一、祖先崇拜(各家位神壇)

一、大成殿

○佛教思想

一、佛寺
真言、密教(音里)に依りて、改定定家不
由に二年前幕府が儒教の保護せらるる
仏教の圧迫、因氏(菅原)の仏式を用
ひて、仏教、對しては、抑へし、對しては、抑へし

加えて、伊勢祭祀の儒教的ナリ

○環球藝術

一、建築

一、繪画

一、彫刻

一、漆工

一、織物

一、漆工

一、陶工

一、金工

◎琉球民族

一、古に於てアイヌ種ノ混血レテハ呼ばレリ其容具、毛深キヲハ之ヲ証ス。

二、其地ニシテ大陸ヨリ朝鮮ヲ經テ海峽ニ入ルル民衆アリ(天孫イ)ハ九州ヨリ日本内地ニ入リ、一ハ琉球ニ入りシモノカ。

首里ノ昔レニシテハ朝鮮ノシウ川(京畿)ヨリ古事記ノ高千穂ノタレニ南島ト同表ナルベシ琉球地村。城、ヲ創スルト云フハ今ノ豊後ニ残レル又シテツクト關係アルベシ。日暮ニテ村主ヲスクリト云フモコレト關係アルベシ。

三、亦來日ガトノ交通數甚トナリ、混血セリ

四、支那人ハ久米村、通民セリ、歸化人一部是ヲナセリ、即チ漢民族モ混血セリ

五、島尻ノ系滿ハイリト云フナル智蘭人ノ名ヨリ出タリト云フ説アリ、ヨリ地方ノ人容具併様自ラ歐風ヲ帯フト云フ

六、平氏ハ日ガヲ去テ南下セル際、沖縄ハ乃朝ノ關係上立チ寄ルニ、直チニ八重山、宮古ニ至レリト云ス、今モ同地方ノ者ハ平家ノ遺族ト自認スト云ス、平安朝ノ古法古式ノ殘レル一証トナサザルカ。

○音楽

古調アリ、楽書亦ヤ、音楽ノ調アリト云ス。
柳田田男氏トハ、章口土地固有ノ樂ナリト云ヘリ。

○教育

国学、其ノハ、長家ノ子弟、小學校、孝經以上
漢唐ノ教ト、和文、習字等、珠算等ヲモテ
カシム、カシム、所謂科擧ナリ。
官吏ハ、武蔵ハ和文(原文)・クモカ不ヲモ
田舎ハ、山村々、落校アリ、和文、珠算、教
ヘタリ。





スガヤシ

○スガヤシ

原初の風俗ヲ存ス
風華アリ其歌序左ノ如シ
一 庭ノ地上ニ道ヲ築スル風
二 庭ノ樹ヲ方ケル風
三 庭ノ上ニ葎ヲカスル風
四 家ノ形ノ楕ニ入ル風

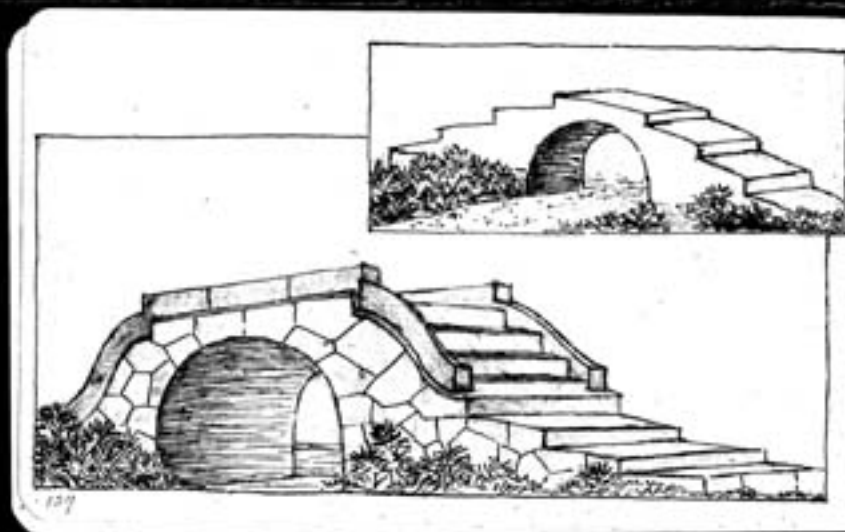


高嶺氏

尚嬾男

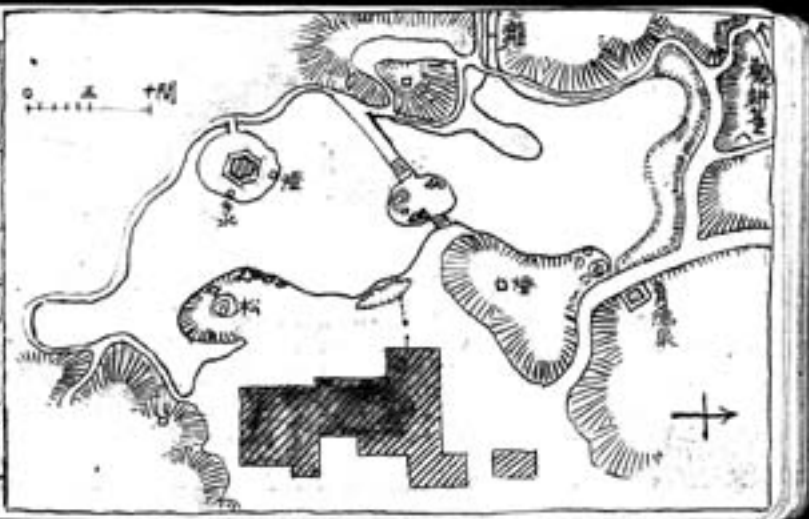
百名氏

玉城氏

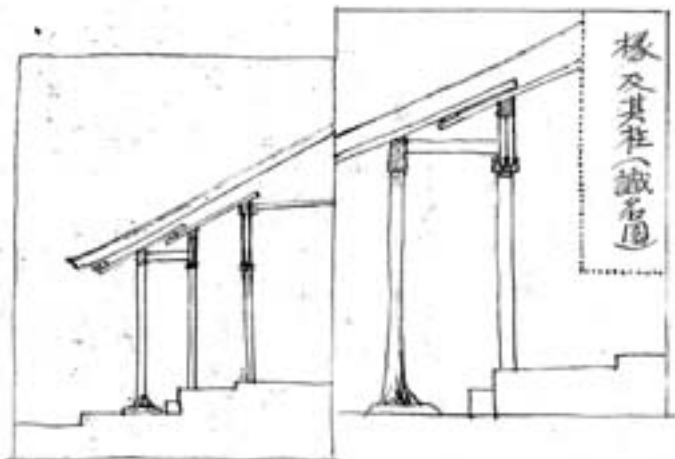


名園

心字池ヨリ時宗ノ御テレン
山ノ自然ニ従ヒ交シモ御正武ノコラス



椽及其柱(識名園)



崇元寺の前には美男あり

浮屠美御神 少平ナハミカシ

ト云フ、森ノ中ニ樹アリ、園比武同式

三天位ノ大キ石垣ニ以テ圍ニ中央ニ

岩あり。

訂悉良次(今河良町)首里ノ北ニ

別荘大若御殿アリ、鳥居龍

藏氏寫真ヲ有スル筈

蘇州碼 計算用ノ算盤

首里郡霸辺ニモ行ハレ八重山ニ

ハナホ 發達セルモノアリ

尺度

一丈人指、指ノ中ニ一節

五寸、指ノ示指ノ間

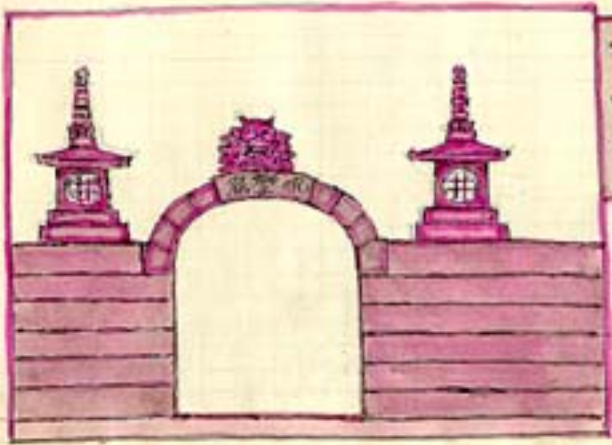
一丈、上ノ指ノ手ニ節

二丈、片廿六層ヨリ指先マテ

二尺五寸チカラ(チノカサ)留ノ志ヨリ指先

五尺チヒル(一尋)両手ノ指先、十七ロ

八七ロアヒキキ等ノ語アリ。



鹿耳門市中
獅子吼空



鹿耳門山



神
桑の精



風
平
四
日
見
た
る
高
山
連
峯

洗車の中



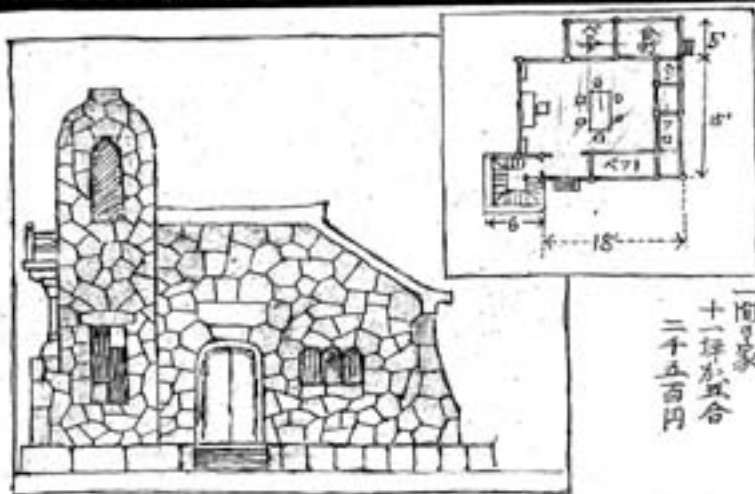
洗車の中



恐ろしい鬼の由来



139



一間家
十一坪五合
二十五百円

○ 琉球建築事終

才一、序説—文献

才二、琉球の地理(全ても不明だが古代と)

才三、琉球の民族と歴史

才四、琉球文化の特性(建築の以て文化は)

才五、固有の宗教と建築

才六、神社と建築

才七、道教と建築

才八、儒教と建築

才九、佛敎と建築

才十、陵墓

才十一、城壁

才十二、宮殿

才十三、民家倉

才十四、橋

才十五、工藝

才十六、言語、文學、

才十七、琉球藝術の四特色

才十八、其原因

才十九、結尾

琉球の古文化破壊時代より放任時代へ入り多し、廢藩多し、旧文化を一掃せんとしテ破壊し、今ソノマニナリ、丁度日中ノ維新多し、昨亦初年ノ有様ナリ、今ヤ保存時代へ入ルベキ運命ニナリ

緒言

一 国土及国民 — 15, 3,

二 建築の素因 — 18,

三 宗教建築 — 30,

四 非宗教建築 — 30,

五 工藝 — 10,

六 建築の特色 — 18,

七 結論 — 5,

123,

ヒ Hi
 ツ Tsu
 ト To
 チ Chi
 ツ Ku
 カ子 Kame
 ア Alu

実地八巻山
 Psi
 Tksu
 Tu
 Tsi
 Ksu
 Kani
 Ksu

リトシト通音ハ琉球ノ常套
 ヲガ名ニ変スルモアリ。
 琉球ノ琉球ニナルト云フ受ハ一ルナリ
 琉球ニ支那ノ音ハウニナリト云フ受アリ
 ㄨ = ㄨ 実地音ハ濡ルミ漢ノ如ク
 オドリ = ㄨㄨㄨㄨㄨ
 ㄐ = ㄐ = ㄐ
 ㄌ = ㄌ = ㄌ
 ㄍ = ㄍ = ㄍ

H — F — P ノ 轉化
 現代音 16世紀音 17世紀音
 大島 HトFノ同 夜田
 実地八巻山 琉球 新田地 (琉球) 田舎一併

ing, 音ハ巻山ノ多シ
 米漢ニ似タリ。
 Ki, Kwitト云フモ
 全ク。
 Si, Suiト云フハ全ク
 符合ス。



琉球

〔手方書目〕

- 中山世譜十三 雍正九年 一冊 東哲
- 同 附卷 七 同
- 琉球國志略十六 康熙五十八年 乾隆
- 抄本 三冊 自表第十七年
至天保三年
- 時御双紙
- 奄美大島史 二冊 乾 坂口徳右衛門
- 八務録 由米 二冊
- 球陽 三冊
- 公附卷 四冊
- 琉球國 寺院建立由來並在島縁起 二冊
- 南島雜詠
- 皇朝中山傳信録 六冊 原康照 公平
- 使琉球記 六 表慶七年
- 陳儀使録 一
- 諸寺重修記 併送改諸佛緣由記 二冊
- 中山世鑑 一
- 王代記 一
- 小島と大島 一
- 南島志 一
- 沖繩志 一 五、明治十年 伊地知良賢

- イクラ = カツサガ
= イカツサガ(大シマ)
- ナセ = ヌーヌツサ(密)
- 走ル = ヌーンチ
- 入レ = ハーエーナユシ
- 入レ = イレー
- = イミソーレー
- = キーリンソーレー
- = ウチンセービレー
- Yes = イー(下)
- = ウー(上)
- No = ウーウ(上)



● 有難ア = ヘアベル = 拜ア侍ル = タンデー (名)

● 内はいりまわい = イミソレー = 入り廻らへ

太陽 = アダ
 月 = タケ
 星 = アス (名)
 山 = ヤマ
 海 = ウミ
 船 = フネ、フネ (名)
 人 = ヒト
 女 = メ
 男 = オ
 夫 = アハ
 妻 = メ
 父 = アハ
 母 = ハハ
 兄 = アニ
 弟 = イモ
 姉 = アネ
 妹 = イモ

● 女 = イナグ (婦, ミカド (名))
 男 = イキガ (男, ビキダシ (名))

● 妻 = トシ
 地震 = ナイ
 カミナリ = カンナル ヒカル = ビカズ (名)
 雲 = フム
 今日 = イマ
 昨日 = キナ
 去年 = クゾー = ヤンヌ
 今年 = クトシ = コンド
 明日 = アサテ 明後日 (アサヤカラサ) アサテ
 明日 = アサ
 明後日 = ナーアサテ

女子の名

カメ カマド
 マカド マカ
 オト

カマコイ
 ハマコイ
 男子の名ナリ

飯 = アメ
 食 = カヌ
 飲 = タマシ
 水 = ミヅ
 行 = イク
 カル = ケーエシ = アヒエシ
 買 = コーエシ
 賣 = ウエシ
 美 = ムササ (清ササ)
 醜 = ヤナサン
 東 = クチ、クチカシ
 北 = ニシカシ
 南 = ハイ
 西 = イツカシ

モ = ナ
 アタマ = ナブル
 ウデ = ウデ
 顔 = ケガレ
 手 = テ
 足 = アシ
 ウミ = マーサン
 マヅイ = コーサン
 兄 = ヤツチイ
 オ = オトコ

大正十三年

七月	25 多事茶	13	?	九月	7 多事茶
	26 多事茶一茶	14	?	2	9 10.07 多事茶
	27 多事茶一茶	15	?	3	8 8.30 多事茶
	28 カハツ茶	16	?	4	19 多事茶
	29 カハツ茶	17	?	5	10.20 多事茶
	30 多事茶	18	?	6	
	31 多事茶	19	?	7	
八月	1 多事茶	20	?	8	
	2	21	?	9	
	3	22	?	10	
	4	23	?	11	
	5 (多事茶)	24	?	12	
	6 (多事茶)	25	?	13	
	7 (多事茶)	26	?	14	
	8 (多事茶)	27	?	15	用議
	9	28	多事茶, 多事茶	16	多事茶
	10	29	多事茶, 多事茶	17	多事茶
	11	30		18	
	12	31		19	

五流球語

1	+	teech	K = h	今 = Nama
2	+	Teech	K = ch	父名 = Tali = Liu
3	+	meech	S = t	母名 = Aga = Amma
4	+	gloch	H = f = P.	(多事茶) (多事茶)
5	+	Jehichi	L = J = f	然り = 多事茶
6	+	Mooch	O = U	否 = 多事茶
7	+	Nanach	E = I.	アタ = ウン (多事茶) 伊 (多事茶)
8	+	gloch	Si = Su	私 = リン (多事茶) (多事茶)
9	+	Kutanch	轉音, 189	根根 = タ =
10	+	Too	G = f	多事茶 = ホ =
11	+	Hiaht		東 = アガリ
12	+	Shoozhi		西 = イリ
13	+	Man		南 = ズイ
14	+			北 = シ

東 = アガリ
西 = イリ
南 = ズイ
北 = シ

22



秋田平西振川谷町末丁九
山田長好

	号	号	号	号
カゴツ葉	6.40	9.25	255/1.40	8.20 10.25
羽同扇	4.57	5.31	205/9.48	6.19 6.32

縣社ノ設計変更は
内務ノ認可ヲ要スヤ
知事限リカ。

琉球

第二十二卷

W
3



11. 福神の中心

元就自著の
福神の中心
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十





CARTE POSTALE

TOUTES LES CARTES POSTALES S'ACCEPTENT PAR LA CORRESPONDANCE AU MÊME TITRE, LA RÉGLEMENTATION DE VOUS

日本東京の石虎町千代田区
 伊東忠介様

M. Ito
 Hongō-ku
 à Tôkyô
 Japon

（Vertical Japanese text, likely a postscript or address details, including dates like 大正九年九月廿八日）

濠洲線

8. 午後六時新搭客
 9. 午後七時十分末節着 午後七時四十分末節着
 10. 午後八時四十分末節着
 11. 午後三時門司着 敷地見分 午後七時十分末節着
 12. 午後六時五十分末節着 午後六時五十分末節着
 13. 午後長崎出帆 (熊野托) 二月十四日香港船(日光丸)

米田線

10. 午後六時新搭客
 11. 午後七時十分末節着 午後八時四十分末節着
 12. 午後三時門司着 敷地見分 午後七時十分末節着
 13. 午後二時五十分末節着 午後三時門司着泊
 14. 午後門司出帆 (阿波丸) 二月十九日香港船(加賀丸) 歐線

西洲線

17. 午後六時新搭客
 18. 午後七時十分末節着 午後八時四十分末節着
 19. 午後三時門司着 午後七時十分末節着
 20. 午後長崎在
 21. 午後九時十分末節着 午後九時十分末節着 出帆 (常陸丸)
 二月十九日香港船(加賀丸) 歐線。

- 31 学院図書館、板本
- 1 学院用新聞、板本
- 2 学院——抄写
- 3 学院——抄写
- 4 北条附近——抄写
- 5 学院——抄写
- 6 材料費
- 7 諸費用
- 8 印刷費

家賃 200.^円
 カン 15.
 諸費用 120.
 ハウスの料 10.
 通信費 5.
 印刷ハウスの料 50.
 紙中費
 1075等 10.

 410.